

# シイタケの原木栽培



## 1. 原木の準備

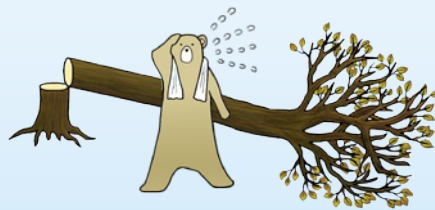
シイタケ栽培には、コナラ、ミズナラなどが使われますが、その樹齢は15～25年生くらいのもものが適しています。

原木の伐採は、秋の紅葉期から春の芽が動き出す前頃（樹液の流動休止期）までに行います。伐採後、約1ヶ月ほど、そのままの状態ですべての枝を乾燥（枝をつけたまま干す）を行い、長さ90cmくらいに玉切りします。

原木の直径は、コナラ、ミズナラでは6～14cm程度のものがきのこの発生、形質ともに有利です。



原木の伐採



枝干し(葉枯らし)



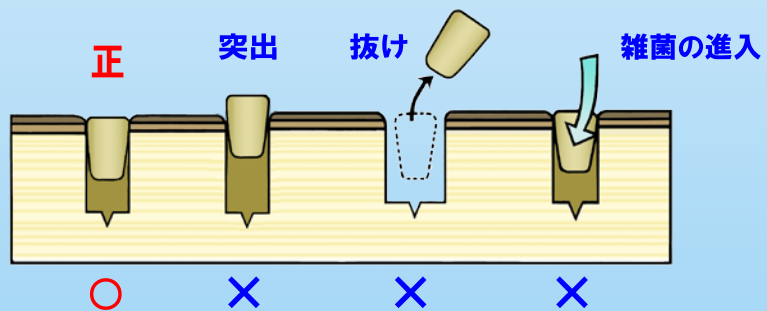
玉切り

## 2. 植菌

玉切りした原木には、速やかに植菌します。

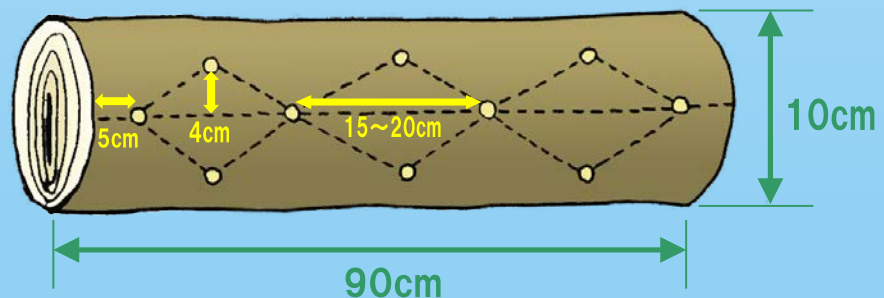
種駒の場合には、駒の長さより深くドリルで穿孔し、駒の上部が樹皮と水平になるようハンマーで叩き、孔の底に空間ができるようにします。

種駒の打ち込み方



植菌数は、直径の2倍を標準とし、木口より5cm以内のところから最初に植えはじめ、千鳥状に植えます。また、ほだ木に節や大きな傷がある場合は、雑菌の浸入を防ぐため、その上下にも植菌します。植菌は直射日光当たらない日陰で行います。

千鳥植え

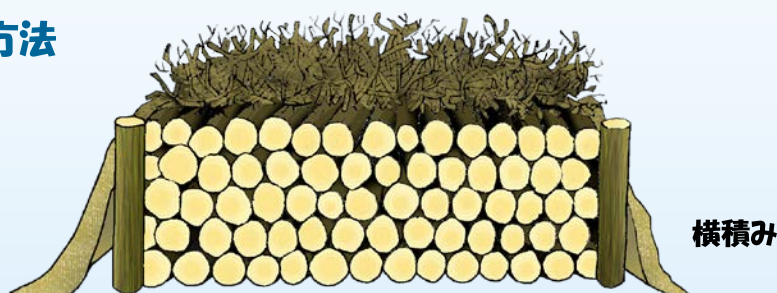


### 3. 仮伏せ

仮伏せは、温度と水分を保ち、シイタケ菌系の活着をよくし、伸長を速めるために行います。ほだ木をまきのように積み上げるか、あるいは、寄せ集め立てかけ、その周囲をムシロなどで覆います。ビニールでびっしり覆ってしまったり、直射日光をほだ木にあてることは避けます。

1~2ヶ月もすると、菌糸が伸び出し、木口面に白っぽく菌糸が吹き出してくるのが見られます。

#### 仮伏せの方法



### 4. 本伏せ

本伏せは、ほだ木内に菌糸を均一に蔓延させるための作業です。梅雨前に行うことが大切です。本伏せを行う場所は、直射日光が当たらない、庭先の下などを選びます。

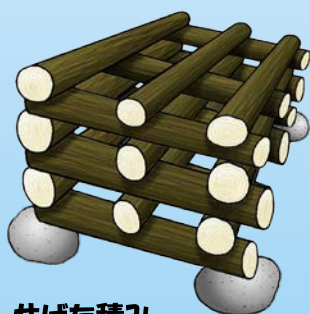
建物の北側などにおく場合は、直射日光が当たらないかどうか確かめ、日が当たる場合は、寒冷紗などで日覆いをすることが大切です。

本伏せ期間の管理は、秋までの間に2~3回、ほだ木の上下、裏表を返す「天地返し」という作業を行い、菌糸を均一に蔓延させます。

#### 本伏せの方法



合掌伏せ



井げた積み



ヨロイ伏せ

### 5. 発生

本格的な発生を迎えるのは、植菌した翌年からとなります。秋、または春1~2日間雨が降った後などに、芽が膨らんで生長し、シイタケになります。

乾燥が続くと、芽が膨らんできても、なかなかきのこにならないことがよくあります。

その場合には、1~2日間くらいほだ木を水につけ、湿度の高い所において置くと、シイタケが発生してきます。

発生量は、ほだ木1m<sup>3</sup>当り1代で30~40kgほどです。

# ナメコの原木栽培



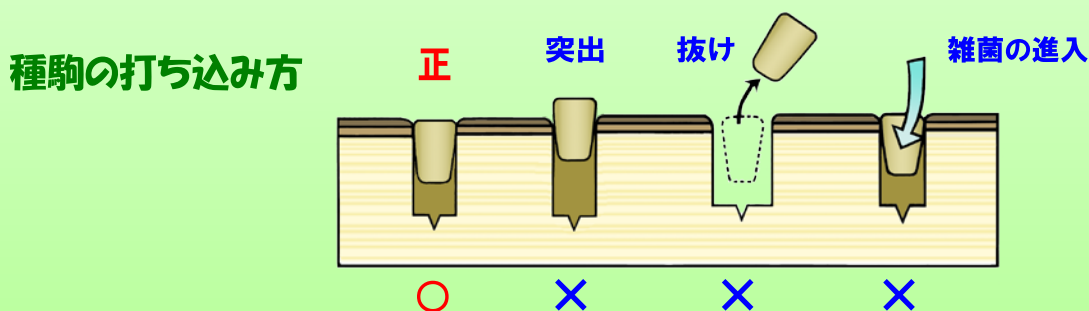
## 1. 原木の準備

ナメコ栽培には、ブナ、トチノキ、サクラ、クルミなどの樹皮が薄く、柔らかい木が適します。原木は、秋の紅葉期から春の芽が動き出す前頃（樹液の流動休止期）までに伐採して、玉切りしたものを使います。樹齢は15～35年くらいで長さは90cmくらいが適当です。



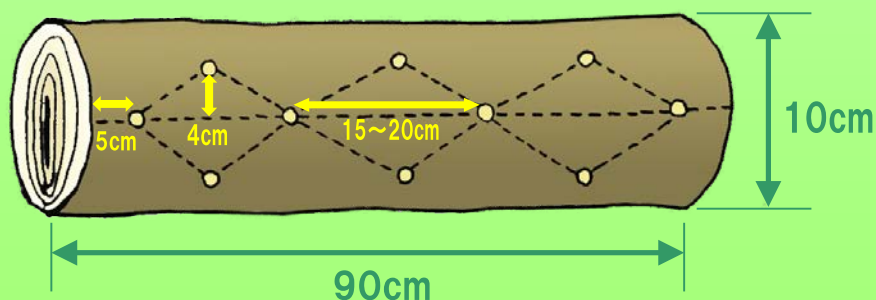
## 2. 植菌

玉切りした原木には、速やかに植菌します。種駒の場合には、駒の長さより深くドリルで穿孔し、駒の上部が樹皮と水平になるようハンマーで叩き、孔の底に空間ができるようにします。



植菌数は、直径の2倍を標準とし、木口より5cm以内のところから最初に植えはじめ、千鳥状に植えます。また、ほだ木に節や大きな傷がある場合は、雑菌の浸入を防ぐため、その上下にも植菌します。植菌は直射日光が当たらない日陰で行います。

### 千鳥植え

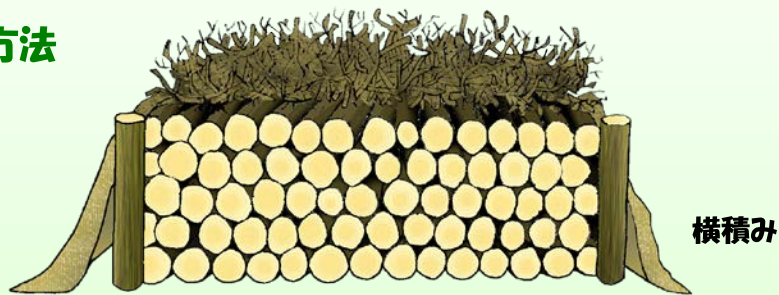


### 3. 仮伏せ

仮伏せは、温度と水分を保ち、ナメコ菌系の活着をよくし、伸長を速めるために行います。ほだ木をまきのように積み上げるか、あるいは、寄せ集め立てかけ、その周囲をムシロなどで覆います。ビニールでびっしり覆ってしまったり、直射日光をほだ木にあてることは避けます。

1~2ヶ月もすると、菌糸が伸び出し、木口面に白っぽく菌糸が吹き出してくるのが見られます。

#### 仮伏せの方法



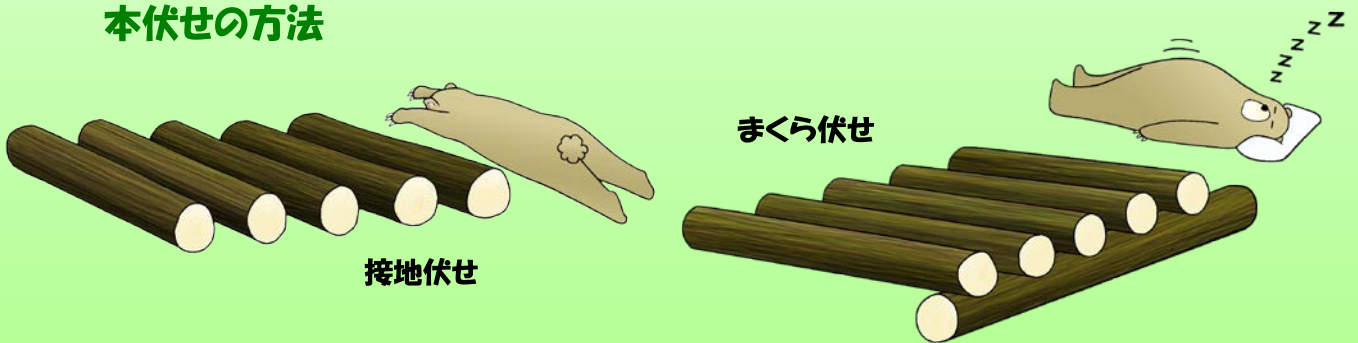
### 4. 本伏せ

本伏せは、きのこを発生させるための作業です。梅雨前に行うことが大切です。本伏せは、直射日光が当たらない林内で行います。

本伏せ期間の管理は、秋までの間に1~2回、ほだ木の上下、裏表を返す「天地返し」という作業を行い、菌糸を均一に蔓延させます。

また、ほだ木とほだ木の間は、10~15cmくらいあけるようにします。

#### 本伏せの方法



### 5. 発生

ほだ木の細いものや材質の柔らかいものは、一夏経過した秋に発生しますが、本格的な発生は二夏経過した秋です。

発生したナメコは、株状のまま採取します。発生しているほだ木を強く動かすと小さな源基がほだ木から落ちたり、取り残したナメコの成長が止まってしまうので注意します。

発生量は、ほだ木1m<sup>3</sup>当り1代で80~100kgほどです。